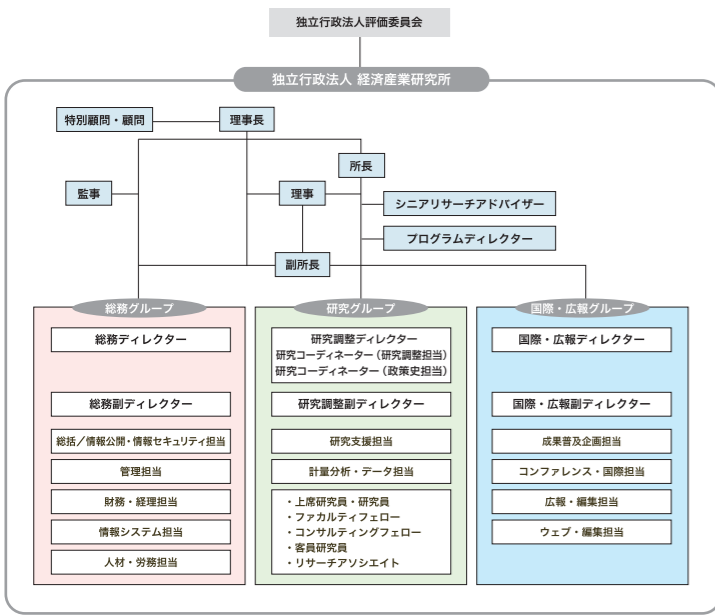


研究所概要 (2013年3月末現在)

設立年月日：2001年4月1日

研究員数：76名

主たる財源：運営費交付金(経済産業省より)



RIIETI

Research Institute of Economy, Trade & Industry, IAA



独立行政法人 経済産業研究所 (RIIETI) の目的

独立行政法人経済産業研究所 (Research Institute of Economy, Trade and Industry/RIIETI) は、霞ヶ関という立地条件を生かし、政策担当者・研究者・産業界等の連携によるシナジー効果を最大限に発揮しながら政策研究・提言を行う本格的な政策研究機関として2001年4月に設立されました。

成熟した活力ある日本社会の構築を目指し、従来の枠組みに囚われないグローバルな視点からの理論的・分析的な研究に裏打ちされた政策展開を実現していくために、RIIETIでは我が国における経済産業政策のあり方についてニーズに見合った研究領域を設け、その領域の下で個別の研究が有機的に関わり合うよう工夫しています。また、効果的・効率的な研究成果の普及・政策提言のために、ウェブサイトや刊行物などの多様なツールを積極的に活用しています。RIIETIは今後も活発な政策提言を通じ、政策論争及び政策形成に貢献していきます。

RIIETI は政策に関する研究を効果的かつ効率的に実施する政策シンクタンクとして、2001年に設立されました。そしてこの12年間、エビデンスに基づく理論的・実証的な研究を行うとともに政策当局とのシナジー効果を発揮し、内外から高い評価を得てまいりました。

ここ数年の円高は2012年末以降、大きく修正されるなどしており、現在日本の経済産業は新たな展開を図る局面にあります。しかし、それは一時的な景気回復に止まらず、経済社会構造の改革やイノベーション、グローバル化などを通じて経済活力の回復と持続的な安定成長を図り、一層豊かな国民生活を実現するものであることが肝要です。そして、その中心は企業活力の増進と賃金雇用の安定的な拡大にあります。

このような局面にあつて、RIIETIは2012年度、経済金融、社会保障、労働問題など多くの分野について150本あまりの研究論文を発表し、東日本大震災関連を含むシンポジウム・セミナーを開催・共催するなど、幅広く研究活動を行うとともに、その成果を提供してまいりました。同時に、研究分野に絡む経済産業や生活についてのデータベースを整備提供し、海外研究機関との研究協力も行ってまいりました。

2013年度も、引き続き経済産業政策の形成に資する研究を遂行するとともに、その成果をタイムリーにシンポジウム等で提供してまいります。

RIIETI に対してこれまで賜りましたご支援、ご鞭撻を今後ともよろしくお願いいたします。

理事長 中島 厚志

RIIETIは、2011年4月から始まった第三期中期目標期間において、日本経済を成長軌道に乗せ、その成長を確固たるものにしていくためのグランドデザインを理論的・実証的に研究することを使命としています。そのために、近年の世界および日本経済を取り巻く大きな環境の変化に対応しつつ、1)世界の成長を取り込む視点、2)新たな成長分野を切り開く視点、3)社会の変化に対応し、持続的成長を支える経済社会制度を創る視点、の3つの重点的な視点を常に踏まえて研究を行っています。

1)の視点は、近年、急速な成長を遂げてきたアジアの新興国をはじめとする世界の成長を日本の成長に取り込み、日本の科学技術力を活かした貿易・投資とビジネス展開を促進することの重要性を表しています。また、2)の視点は、我が国の強みと社会状況を生かして、グリーン・イノベーションやライフ・イノベーションに代表されるような新たな成長産業を生み出すため、R&D政策の在り方や生産性向上の理論・実証分析の重要性を表しています。さらに、3)の視点は、我が国の持続的な成長を支えるためには、経済的・社会的インフラについて、高齢化、環境、財政などの制約を乗り越え、社会の変化に対応した安定的な制度を構築することの重要性を表しています。RIIETIは、これら3つの視点を常に念頭に置きながら、我が国の今世紀における持続的な発展に向けての研究を、日本の研究者と政策立案者、さらにはアジアや欧米をはじめとする海外の研究者との緊密な連携のもとに総合的に遂行しています。

東日本大震災の発生から2年が経過しましたが、この大きな危機を乗り越え新しい日本を創っていくためにも、RIIETIは中長期的な視点から、全力を挙げて研究を進めていく所存です。

所長 藤田 昌久

シニアリサーチアドバイザー

根津 利三郎 (株富士通総研)	吉川 洋 (東京大学)	若杉 隆平 (学習院大学)
--------------------	----------------	------------------

プログラムディレクター

研究プログラム	担当ディレクター	研究プログラム	担当ディレクター
貿易投資	若杉 隆平 (学習院大学)	国際マクロ	伊藤 隆敏 (東京大学)
地域経済	浜口 伸明 (神戸大学)	技術とイノベーション	長岡 貞男 (一橋大学)
産業・企業生産性向上	深尾 京司 (一橋大学)	新しい産業政策	大橋 弘 (東京大学)
人的資本	鶴 光太郎 (慶應義塾大学)	社会保障・税財政	深尾 光洋 (慶應義塾大学)
政策史・政策評価	武田 晴人 (東京大学)		



独立行政法人 経済産業研究所

〒100-8901 東京都千代田区霞が関1丁目3番1号

経済産業省別館11階

Tel: 03-3501-1363 (代表) Fax: 03-3501-8577 (代表)

ホームページ <http://www.rieti.go.jp/>

Eメール: info@rieti.go.jp



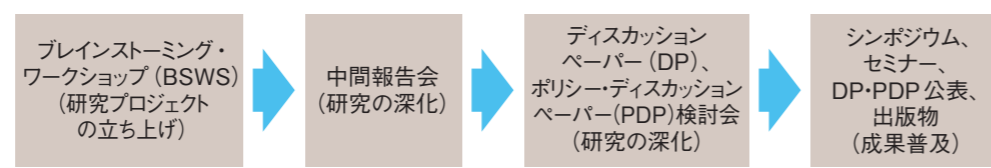
2013年5月作成

研究内容



研究プロセス

研究の質を高める目的で、国内外の専門家や政策当局者を交えて議論を深め、全ての研究について少なくとも3回はワークショップやシンポジウムなどの「議論の場」を設けています。



研究員の分類



シンポジウム・セミナーの実施

研究成果の普及のために、シンポジウムやセミナーを開催しています。さらに、画像音声の同時配信・オンデマンド配信、議事録や配布資料のウェブ掲載などを通じた即時公開にも努めています。

■ 政策シンポジウム

RIETIにおける研究成果の発表とともに、関連する内外の政策実務者、研究者、民間有識者、ジャーナリストを広く招聘してディスカッションを行い、研究成果のさらなる深化を図っています。シンポジウムでの議論はサマリーの形でまとめられ、プレスリリースやRIETIのウェブサイト等を通じて配信されます。

■ BBLセミナー

米国の大学や研究機関では、研究者や教授、学生たちの間でBrown Bag Lunch (BBL) Meetingというものが頻繁に行われています。自分の昼食を茶色の紙袋に入れて集まる事が名前の由来です。RIETI BBLシリーズも昼休みを利用し、国内外の有識者を講師として招き、様々な政策について産官学の垣根を超えてフランクな議論を行う機会を提供しています。

ウェブサイト <http://www.rieti.go.jp/>

ウェブサイトは日本語、英語、中国語で構成され、RIETIや研究員の活動を幅広く紹介しています。研究成果であるディスカッションペーパーや研究員による政策提言的なコラムの掲載、また、各研究会独自のコンテンツにも力を入れ、個別の政策 이슈を深く掘り下げて発信しています。日本の経済成長と産業構造変化を分析するための基礎資料である「日本産業生産性データベース (Japan Industrial Productivity Database: JIP)」や、東アジアにおける為替相場政策協調と金融当局のサーベイランス機能の向上にも貢献すると期待される「アジア通貨単位 (AMU) と東アジア通貨のAMU乖離指標」の測定結果を公開するなど、他では入手できない貴重なコンテンツを取りそろえています。



ディスカッションペーパー・ポリシーディスカッションペーパー

ディスカッションペーパー (DP) は、内部のレビュー・プロセスを経て、論文形式でまとめられた研究成果です。高い学術的水準を確保しつつ、政策形成に貢献することを目的としています。

ポリシーディスカッションペーパー (PDP) は、RIETIの研究に関連して作成された論文で、政策を巡る議論にタイムリーに貢献することを目的とした研究成果です。

これらは、ウェブサイトからダウンロードが可能です。



出版物

専門分野毎のレフェリー審査をクリアする学問的水準の高い研究成果や、より広い読者層を対象としたタイムリーな政策研究トピックなど、RIETIの出版物のテーマは多岐にわたり、様々な出版社から刊行されています。



- 左から
- ◆ 「ハイテク産業を創る地域エコシステム」 西澤 昭夫、忽那 憲治、植原 伸彦、佐分利 応貴、若林 直樹、金井 一頼 著 有斐閣 2012年
 - ◆ 「国際比較の視点から 日本のワーク・ライフ・バランスを考える」 武石 恵美子 編著 ミネルヴァ書房 2012年
 - ◆ 「通商産業政策史第1巻—総論」 尾高 燿之助 著 (財) 経済産業調査会 2013年

広報誌 RIETI Highlight

シンポジウム、セミナーの開催報告、新刊本の書評、フェローによるコラムなど、四半期ごとにRIETIの最新活動状況を紹介する広報誌です。フェローの研究成果である「ディスカッションペーパー」について、主要なポイントや研究の問題意識などを著者インタビューを通じて分かりやすく紹介する「Research Digest」のコーナーも掲載しています。また、毎号、研究成果の中から時宜を得たテーマを取り上げ「特集」としてご紹介しています。

